

科目名	子ども家庭支援論		担当教員	真鍋 顕久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	相談援助職				
実務経験を生かした授業内容	相談援助業務の経験を生かし、ソーシャルワークについて講義する。				
到達目標及びテーマ	1. 子ども家庭支援の意義・目的・機能について学ぶ。2. 親子関係と家族・家庭について理解する。3. 子育ての喜びと親の育ちについて考える。4. 子ども家庭支援における実践・連絡・記録・評価について学ぶ。5. 多様な社会資源との連携・協働について理解する。				
授業の概要	<p>1. 社会の仕組みやライフスタイルが大きく変わり、子育て世代の子育てに対する考え方等にも影響を及ぼしている。子ども家庭支援が必要とされる社会的背景を理解し、保育者の観点から、子ども家庭支援の必要性とその役割について学ぶ。</p> <p>2. 家族家庭とは何かを把握したうえで、現代の家族の形態を理解する。</p> <p>3. 保育者と保護者が信頼し共感しつつ、子どもへの理解を共に深めようとする気持ちや姿勢の大切さについて学ぶ。</p> <p>4. 子ども家庭支援における実践の在り方・記録の取り方・支援内容の評価について理解する。</p> <p>5. 保育に関係する諸機関との円滑な連携を図るために必要な関係機関の機能や制度についての知識を深めていく。</p>				

授業計画	
第1回	子育て支援の目的について考えてみよう
第2回	家族・家庭とは
第3回	産育儀礼について
第4回	家族機能の変化と家庭支援の意義
第5回	乳幼児期の子どもと家庭
第6回	子育てをめぐる様々な思い
第7回	子育て支援の構造
第8回	家庭支援における保育士の役割
第9回	保育所の地域子育て支援事業
第10回	地域子ども・子育て支援事業の概要（利用者支援、地域子育て支援拠点事業、妊婦健診、乳児家庭全戸訪問事業）
第11回	地域子ども・子育て支援事業（養育支援訪問事業、子育て短期支援事業、ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり）
第12回	地域子ども・子育て支援事業（延長保育事業、病児・病後児保育事業、放課後児童クラブ、実費徴収に係る補足給付を行う事業、多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業）
第13回	病児保育事業
第14回	保護者への対応事例1（精神疾患を有する保護者への対応）
第15回	保護者への対応事例2（外国籍等の保護者への対応）

事前学修	各回の授業の最後に、次の授業に関する学習についてその都度指示をする。
事後学修	授業で学んだことを整理しておく。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	授業の最後に質問タイムを設け、感想や疑問に思ったことを率直に述べてもらい、それに対してコメントをする。

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	新聞記事をもとにしたレポート作成
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への積極的な参加姿勢
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業において適宜資料を配布する			